

広島県立文書館 収蔵文書の紹介

江戸時代の年始



江戸時代の正月風景（『諸国図会年中行事大成』より）

※旧暦の1月1日は、今日でいう「旧正月」（1月末～2月中旬）にあたります。

平成22年 1/26(火)～3/19(金)

広島県立文書館展示室 (広島県情報プラザ2階)

開館時間◆9時～17時（土曜日は12時まで）

休館日◆日曜・祝日・休日

入場無料

広島県立文書館

〒730-0052

広島市中区千田町三丁目 7-47

TEL 082-245-8444

Eメール monjokan@pref.hiroshima.lg.jp

収蔵文書の紹介

「江戸時代の年始」解説文

A 正月行事

「年中行事之覚」

(尾道町・橋本家文書二一〇五)

御社ハ

一 天神社 注連 大小 四ツ
門松ヲ鳥居エ
立ル

一 太神宮 同 大小 六ツ
門松 同

一 牛神社 同 一ツ
門松を立ル

一 稲荷社 同 一ツ
門松お立

一 生田権現社 同 一ツ
同 三重

一 若宮 同 一ツ
同 老重

一 何れ（種敷）祝餅之ひたへハ
かし（種敷）しき紙式枚・もろも
ろもき老重、注連もろもき

二夕向井、中へ柳ヲ付ル
一大晦日迄に御社家内

迄掃除相調、門松ヲ

立、同代々（巻）・ホントウラ

柳・竹二本・クミハラ

ヲ用ユル

一同日晚、御せち備へ

御膳清浄ニして
もろもき一重引

(中略)

次ニ、其夜ル寅ノ時ニ至リ、

元旦下シテ天神社へ

参リ、太鼓ヲウチ、

掃宅シテ

次ニ若水ヲ迎イ

歌ニ

あら玉の年乃始に

筆取りて

萬の宝書を納る

其水仍ム時ニ、モロモキ一重

小餅一重、白米壺升ヲ備

へテ仍ム、其水於年徳神

へ備エ

次ニ、大ぶく、伊勢茶

次ニ、小餅三ツ焼キ

次ニ、味噌三玉焼キ

家内不レ残イタダク也

次ニ、吸物ヲ備へ

次ニ、早朝ヨリ天神社ニテ

村中年始ヲ受ル

猶ヲ大晦日ヨリ大守様

御越年御祈禱執行

栄々致し候事

次ニ、晩、セチ

次ニ、二日朝、吸物

晩、セチ

次ニ、三日朝、吸物・セチ

祝ヒ上ケ

次ニ、元日ヨリ五ケ日迄ノ内

日限ヲ見合、地祝イいたし、

カキサケノ幣二本

カヤニサス

享保十一年十二月

「家内儉約相改ル年中行事帖」

(広島城下・岩室家文書二)

享保十二丁年始ヨリ儉約仕形

一元日、雑煮、二日ヨリ常之通ノ食ニ仕ル

三ケ日を食、五日ニ雑煮

元朝之朝せちハ古格之通ニ仕候

一 元日、手代共へ 盃 七郎兵衛 七右衛門 甚七 忠助 助七 忠八 幸助 市三郎

家来之者盃相濟、筆取

権七へ盃

申ノ元朝も同断

一 五日、雑煮

一 九日、節有間敷兩人、向ノ姉、隣兩人

献立 鱈・汁・ふわ・盃 いり子 セリ やきとろふ くつし

一 十四日、例年帖祝、朝雑煮ニ仕、帖祝一所ニ

祝儀仕ル、源八・弥三郎計參ル

但シ確者ともへ、内日用ともニ祝儀止ル

B1 年始状——商家の年始状——

「尾道町鑰屋甚兵衛書状」

（尾道町・橋本文書二二九六—八—二一）

尚々塩引鱈ニ
致進ニ上之候、是
年頭御祝義迄
御座候

年首御慶目出度

申納候、先達御祝詞 しゆくし

預ニ御便簡一、忝 貴家 かたじけなく

御勇健被レ為ニ御歳迎、

大幸奉レ存候、為レ差

義無ニ御座一候得共、

年頭之御祝義

為レ可レ得ニ貴意一、如レ斯 まいるをもつて

御座候、猶永陽以レ參

萬慶可ニ申上候、恐惶謹言

正月十三日

鑰屋 なぎ

甚兵衛

（花押）

灰屋宗久様

御同 政次郎様

「尾道町鑰屋甚兵衛書状」

（尾道町・橋本文書二二九六—八—二六）

為ニ新春之嘉伴一

貴札忝、殊更祝餅・

鯛一連ニ、愈 貴意 いよいよ

幾久祝入奉レ存候、

御家内御揃御堅勝

被レ成、御越年目出度

奉レ存候、当境無為

加年仕候、早速御

祝詞可ニ申上ニ之處、

却而貴報罷成候、

家内共私より御祝義

申上度奉レ存候、此旨

当所別謝掃候

次第、長閑可ニ罷

成一候之間、頓而

以ニ參候ニ萬慶

可ニ申上候、恐惶謹言

正月八日

鑰屋 なぎ

甚兵衛

（花押）

灰屋宗久様

貴報

「尾道町鑰屋兵九郎書状」

（尾道町・橋本文書二二九六—八—一九）

改春之御慶賀

不レ可レ有ニ尽期御座一候、

弥御安康御越年

可_レ被_レ成_目出度奉_レ
存候、当境無_二異義_一
加年仕候、年始御祝詞
申上度、扇子一箱進_二上_一
之_一仕候、猶期_二永日之時_一候
恐惶謹言

鑰屋

兵九郎

(花押)

正月十三日

はいや

政二郎様

「尾道町龜山九兵衛書状」

(尾道町・橋本家文書二二〇〇—四七)

尚以御内儀様へも其様
御心得奉_レ頼候、扱々めつらしき
越年仕申候、逗留之程奉_レ

新曆□吉慶何

頼候、以上

方も目出度申納候、

弥以御家内御堅固御

越年可_レ被_レ遊_二御座_一与

珍重奉_レ存候、拙者事

弥無事ニ加年仕申候、

はかりながらおころやすく
乍_レ憚_二御心保_一、思召可_レ

被_レ下候、拙者気色

弥以快方御座候、講

尺ニも只今_者外_江

参申候、右様御心得

可_レ被_レ下候、旧冬も御状

進申_候、定而相届

可_レ申_奉存候、猶期_二

永日之時_一候、恐惶

謹言

龜山九兵衛

正月廿三日 (花押)

橋本甚七様

「広島城下中尾長三郎書状」

(広島城下・保田家文書二二二—一七)

尚々当地相應之御用向御座候へ、
可_レ被_レ仰聞_一候

新春之御吉慶不_レ可_レ有_一際限_一

目出度申納候、其御表無_二別条_一、弥

御堅勝被_レ成、御超歳珍重奉_レ存候、

当地無_二異儀_一、下拙無_二異加年仕候_一

年始之御祝詞為_レ可_レ申述_一、呈應札_一候

猶期_二永日之時_一候、恐惶謹言

正月三日

中尾長三郎

(花押)

繩屋九左衛門様

B2 年始状——武家の年始状——

「浅野式部少輔長照書状」

(広島藩浅野家中・山田文書三四—一五)

為_二年頭之嘉儀_一、

看到来祝着之

至候、猶忍平右衛門・

徳永喜内可_レ申候、謹言

式部

正月廿一日

長照_印

山田藏人殿

「松平長蔵長吉(浅野長照)書状」

(広島藩浅野家中・山田文書五一—四)

去月廿六日之貴札

忝致「拜見」候、仍年
頭之為「御祝儀」、爰
元御宿所へ伺ひ仕候
御札被「仰聞」、御遊
勲之至奉「存候、弥
御無事之旨珎
重存候、猶期」後
音之時「候、恐惶謹言

松平長藏
二月十二日 長照 (花押)

浅因幡守様
貴報

「伊東修理大夫祐相書状」

(広島藩浅野家中・山田文書五六―四)

右年頭之御嘉儀御来儀
之段承「之、過分之至
存候、右為「御禮」如「斯候、
恐惶謹言

正月廿一日 祐相 (花押)

「浅野因幡守長治書状」

(広島藩浅野家中・山田文書七九―一〇)

為「念頭之祝儀」
鯉節拾連到来、
令「祝着」候、当地
別条無「之、我等
無事候条、可「
心易「候、猶追而可「
申候、謹言

因幡守
正月廿五日 長治 (花押)

山田監物殿

「年始書翰扣」

(賀茂郡吉川村・竹内家文書六三八四)

此通八通

シ

(嘉祥)

改年之御吉慶不「可「有「
際限御座「目出度申収候、先以
御且「
御且「
御超歳被「為「遊「御座「候段、

恐悦之至奉「存候、右年始
御祝詞奉「申上「度、乍「略儀」
以「愚札」差此御座候、御序之砌
御前宜執成之程奉「希上「候、
猶期「永陽萬喜之時」候
恐惶謹言

正月五ケ日 名誰
何 (花押)

何ノ某様御内

様
参人々御中

C 正月の料理

「御年始隆右衛門袴着用之節組合御役内祝献立」

(賀茂郡上保田村・平賀家文書四四四八)

子正月七日

御年始

隆右衛門袴着用之節

組合御役内祝

献立

高月

唐くわし
金米糖
つるし柿

御茶 喜せん

御着座
吸物

すめ
ひれ

すめ…「澄子」で「すめ」と読む。
清まし汁のこと。

御雑煮

もち
ふり
あなご
かき
こほう
にんしん
ごんぶ

土器 田つくり

くろ豆

御祝盆

三ツ盆 本月臺

銚子

重ね鉢

かすの子
にまめ
すがき

又御祝盃
五ツ組

かん瓶

式

吸物

白みそ
つる
青み

皿鉢

さしみ

まなかつお
ていれぎ

ていれぎ…たいらぎ(玉璣。タイラ
ガイ(平貝)ともいう。ホタテ貝
同様、大きな貝柱が生食される。

井

ひれ

まなかつを
付やき

皿鉢

さしみ
しらす
ちさ

長皿

ねぶか

ねぶか…「根深」。ネギの別名。

しらす…白のすりごまに豆腐・砂糖・
酢・塩を加え、だし汁でのぼした
もの。白酢
ちさ…キク科。レタス・サラダ菜・
カキチンヤなどに大別される代表
的な葉菜

足付盆

八寸 はんぺい
料理なます

皿鉢

五しき
巻酢し

三

すめ
白うを

皿鉢

焼もの

皿鉢

引し
さいいかんせき

さいい…さいえ(采螺)のこと。

武将盆

井 梅碗 なまこ
鯛さくら
三はいつけ

鯛さくら…鯛の桜煮丸

なへ焼

かも
せり

硯ふた

九年甫
かまほこ
あび
たまご
にし
かうたけ
れんこん
山のいも
くわ井

にし…辛螺 小さいものは吸物に
する。大きいものは貝焼きにし
て肴に使う。

吸物 みそ
をばけ

をばけ：鯨の尾と身の間の肉。

坪菜鳥 ミそ
汁 あなこ
つみ入

皿 かい・きんかん
なます
大こん
にんしん
御飯

二膳

平 ふり
きんこ
山のいも
こほう
こんぶ
ワらび
青み

椀子菓

やき山どり
かまぼこ
たまご
くわい
しい竹

中皿 あわひ
しやうゆ
わさひ
みしまのり

五 吸物 たんさく
玉子

みしまのり：三島のり。摂津三島郡で作られた寒天。

きんこ：ナマコ目キンコ科の棘皮動物。煮乾にして食用にする。キンコやマナモコの内臓を取り出し海水で煮てから乾燥させたものは、最高級の中華食材として「ギアワビ」「ラカノヒレ」とともに江戸時代から中国に輸出されていた。

吸物 はまくり

千秋萬歳楽

「御屋舗毎日献立」(尾道町・橋本家文書九三四)

晦日朝

(前略)

井 したし
井 香之物
昼

井 煮染
井 香之物
夕御膳

繪 汁
青

半へい
青

平皿 三木大根
切身

鉢 せり
指身
白髪大根

千代口 たまり
わさび

鍋

牛ほう
鴨
豆腐
ねき

井 ふきとう
煮ころし

子正月元日

井 数の子

重組 上治二組

一組物 紅薄鉢
小くわ井
香茸
金かん
にシ煮附

二 たら
せんまい

三 かり馬
田作り

四 煮豆
ねりこんにゃ

右 上治同
雑煮部 大こん

千蒲鉾
若菜

小皿

田作り
五豆

御せち

鱈

わけき
糸うを

汁

ミソ
目豆腐
青のり

平皿

人参
いも
にシ
牛ほう
こんにやく

二日朝

せんさい

小皿

田作り
五豆

御せち

鱈
俵子

汁
勝うを
ねふか

平皿

椎茸
切身
水菜

三日朝

雑煮部

いも
焼あなこ
若菜

小皿

田作り
五豆

御せち

鱈

合味噌
かふ菜
小からし

菓子椀

湯波
蒲鉾
せり

鉢

生貝指身
うと

千代口
代々酢

D 長寿祝い

天保十年十二月

「御祖母様耳順御年賀二付内祝ひかる帖」

(賀茂郡吉川村・竹内家文書六七七七)

文久四年二月

「御祖母米字寿賀餅贈帖」

(賀茂郡吉川村・竹内家文書六八七四)

E 領主への年始挨拶

「年頭御目見之節筆記外綴」

(賀茂郡吉川村・竹内家文書六五八二)

嘉永五年子正月年頭之次第

正月五日出府

六日

町御奉行

加茂織之助様
石田平五郎様

御代官

今村又之助様
川崎益見様

右四軒へ御届ニ罷出ル
郡御奉行様へも罷出不^レ苦趣ニ候へ共

此度ハ罷出不レ申候

右町御奉行・郡御奉行ハ、本文関へ罷出、御代官様ハ内庭へ罷出ル

着服ハ袴羽織

七日 暁 昼上刻 登城

御鎗ノ間へ着席

上下着

若黨袴羽織
御供禮錢為レ持

態申遣ス

来正月七日、年頭御礼

被レ為レ

請候ニ付、前々日迄ニ無ニ間違

爰元へ罷出、尤出浮之上、

町御奉行所并当御役所

へも可レ遂ニ案内、御礼錢之義者

例之通り差出可レ申者也

賀茂郡

亥十一月 御役所 印

割庄屋

竹内亮左衛門

追而煩差台等不レ罷出一候ハ、

是又無ニ間違ニ早々可レ申出、御礼錢之義ハ差出候ニ不レ及候事

文化十三年正月七日

「御城下ニおめて年頭勤方先々扣」

(尾道町・橋本家文書二〇五三)

御年寄

一丁目上角

浅野縫殿

南御門東側

千石隼人

一丁目裏

石井内膳

南御門内

關 藏人

同

林権大夫

御郡代

立丁

寺西監物

小姓町

龍神甚大夫

町御奉行

間鍋御門内

寺田源藏

立町御門

植木直大夫

国泰寺下

小姓町

御勘定奉行

狸小路

山田角馬

小姓町上小路

満田九郎左衛門

中小姓町

菅 求馬

八丁堀

山下十右衛門

御船奉行

水主町

田中孫兵衛

三人衆

水主町

原田左平二

中川貞右衛門

和田大助

郡廻り

白嶋上西角

森 左門

御代官

同

白嶋

大藤源七郎

流川

宮田和多理

御蔵奉行

後松原

三上雅登

御札場詰

岡 和作

串田助右衛門

横山十内

坂戸兵之助

長尾禎助

三輪好太

御帖元

錦織弥源太

曾川兵藏

永田小平太

日次山

下竹屋町

裏小姓町

白島

小笠原様

御屋敷

関左内様御留主へ

鉄砲丁

木村 斎

白島東中ノ丁

周参見新右衛門

同九軒町

南部藤右衛門

「態申遣ス」

(佐伯郡玖島村・八田家文書六一二五)

態申遣ス

来ル七日年頭御禮被レ為レ

請候付、可レ罷出段、兼而申付置

候処、其節座順之義ハ能美

嶋飛渡瀬瀬村森井寛左衛門

次へ順座可レ致者也

寅 印 佐伯郡

正月五ケ日 御役所 印

割庄屋格

玖島村

小田新七

「態申遣ス」

(佐伯郡玖島村・八田家文書六一九六)

態申遣ス

来正月七日、年頭御禮為レ

請候間、其方義可レ罷出、尤

前日町御奉行中江も可レ遂ニ

案内ニ罷出候哉否之義、来

月四日迄ニ可レ申出者也

一 御禮錢式拾疋可レ差上候

座順之義ハ追而可レ申遣候

事

(貼紙)

「本文之通りニ付、順送罷出候者共へ

内承合を可レ申候事

佐伯郡

丑十二月廿七日 印 御役所 印

割庄屋格

玖嶋村

小田新七

F 御年玉

「丑暮歳暮之覚・寅正月年玉覚」

(高宮郡南原村・重清家文書)